

1月第3週の動意銘柄

レアアース軒並みS高

中国対日輸出生生用も制裁

連休明け13日、東洋エンジニアリング(6330)のほか、第一稀元素化学工業(4082)、アサカ理研(5724)のレアアース関連銘柄が軒並みストップ高。中国政府がレアアースの対日輸出について民生用も制限していると報じられた。南鳥島周辺でのレアアース泥探掘試験が始まり、深

半導体高市勝利先取り

東京エレクトロン(8035)、アドバ

ンテスト(6857)、レーザータック(6920)など主力半導体関連銘柄が大幅高。高市首相が通常国会で衆院を解散し、2月にも総選挙を検討との報道から9日のナイトセッションで225先物が大幅高となる中、与党勝利なら国内半導体産業育成への期待から主力銘柄へ先導的に資金が流れた。

助川電に買気再燃

助川電気工業(7711)がストップ高。総選挙自民勝利による高市首相の政策実現期待から核融合関連で本命視される同社株に買い気再燃した。政府は核融合発電の国の研究開発施設を全国に3カ所設け、多額の投資が必要な研究機器を整備することも伝わった。

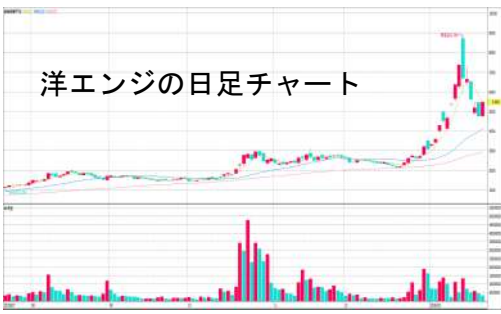
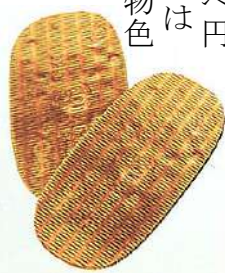
正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は3週ぶりに反落しました。ただ、前半の大幅な下げの後半で取り戻し、日経平均は前の週から89円の下落にとどまっています。自民圧勝観測の後退、グリーンランド領有を巡る米欧対立の深刻化や長期金利が上昇したことからのリスク回避ムードが強まり、213000円まで5日続落、5万3000円を切り下げました。その後、トランプ大統領が発言を撤回、急速に戻し、一時5万4000円台を回復、週足は陽線です。

決算確認し買場探り

今週からは3月期3Q決算の内容と株価の反応を確認しながら有望銘柄をピックアップし、買い場を探ることにします。ただ、為替のレートチェックが入るの思惑からドル

円が155円70銭台へ円が急騰しました。週明けは急激な円高への反応と物色の流れを確認しながら銘柄を選別していききたいと思えます。花咲翁

マイクロ波ストップ高
組織再生型靱帯装置開発へ

14日、マイクロ波化学(9227)がストップ高。医療機器スタートアップのCTBE(横浜市)と膝前十字靱帯再建手術向け組織再生型靱帯実用化に向けたマイクロ波を用いた

独自の脱細胞化技術を活用した量産装置の開発を開始したと発表した。マイクロ波が装置を納入、CTBEが商用機開発に必要な技術課題の洗い出しと大量生産条件の検証を進める。2028年には開発製品の商用生産に向けた実装を目指す。

竹内製通期末達警戒

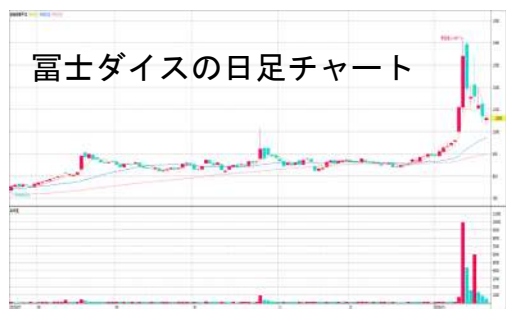
竹内製作所(6432)が大幅反落。26年2月期第3四

note営業益2.7倍

note(5243)がストップ高。

26年11月期の業績予想について、連結営業利益で前期比2.7倍の7億円を見込んでいる。主力事業である「note」と「notep」が強固な収益基盤として引き続き成長を牽引する見通しで、経済産業省と

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施する生成AI開発推進プロジェクト「GENIAC」に採択され、生成AI関連事業を受託したことにより、売上計上を見込んでいる。



富士ダイス連続S高

レアメタル使用大幅削減新合金

富士ダイスは、15日、ス（27）が2日連続でストップ高。新合金の開発が、社が開発した新合金「サステロイ」の30-の記載が、材料視され、鋼の比重、超合金と同等の鋼の4倍の耐摩耗性を実現し、地政学的リスクが懸念されるレアメタルの使用量を大幅削減されたことが引き続

Sansan（443）が大幅反発。26年5月期の第2四半期累計決算を発表、連結営業利益で前年同期比15・9倍の29億1200万円となった。売上高成長や売上総利益率の改善に加え、人件費率や広告宣伝費率が前年同期比で低下したことや、前年同期に発生した本社移転関連費用がなく

Sansan営業益16倍

なったことにより、大幅な増益となった。ベクトルはストップ高（6058）がストップ高。26年2月期の第3四半期累計決算は連結営業利益で前年同期比79・6%増の71億9800万円となった。前期において赤字であったNewsTVや韓国事業が黒字化した。

した新合金という。アイドマ・ホールディングス（7373）がストップ安。26年8月期第1四半期の連結決算は、経常損益8億2700万円（前年同期比19・7%増）と大幅増益で着地した。ただ、市場予測を下回り、通期計画の40億円（前期比25・3%増）に対する進捗率が20・7%に

とどまったことで失望売りを浴びた。良品計画1Q上振れ良品計画（7453）が大幅続伸。26年8月期第1四半期の連結決算は、営業利益283億8300万円（前年同期比29・3%増）と大幅増益で着地、市場予想上回り、通期計画の790億円（前期比7・0%増）に対しても順調な滑り出しになった。

個人投資家向けIRセミナーin大阪

新田ぜうちん (4977)
Connect and Create

2026年2月14日（土）参加費無料

株式評論家 高野恭壽氏の株式講演会

参加申し込みは info@marketpress.jp から！

主催：株式市場新聞社 場所：大阪産業創造館
6階会議室（堺筋本町駅[出口1]徒歩3分）
13時開場、13時30分開演



3DMがストップ高

医師主導特定臨床研究開始

週末16日、スリ・ディー・マトリックス(7777)がストップ高。自己組織化ペプチド技術を用いた吸収性局所止血材「ピュアスタット」について、静岡県立静岡がんセンターで、甲状腺切除後の滲出血性出血に対する止血材としての評価を目的とした医師主導の特定臨床研究が開始されたと発表された。この研究は、甲状腺切除後に既存の止血法では十分な

ていることや4Q以降、来期に向けEFMやウエハソータなどの主力搬送装置の受注、売上は増加を見込むことが見直し買いを集めた。

日東紡AI向けガラス

日東紡績(3110)が7連騰。AIサーバーや半導体パッケージ基板向けのスペシヤルガラスの引き合い急増が材料視された。Tiglassは高剛性かつ寸法安定性が非常に高いガラス布で、先進パッケージング工程での基板の反りを

ローツエ見直し買い

ローツエ(6323)が急反発。26年2月期の第3四半期累計(3~11月)では連結営業利益で前年同期比8・1%減益ながら、9~11月期では急回復し

決算発表本格化で個別物色へ

先週の東京株式市場はグリーンランドを巡る米欧間の緊張が高まる場面がありました。また、高市首相が衆院解散意向を表明する中、立民と公明が新党を結成。与野党の公約に食料品の消費税減税が掲げられたことで長期債利回りが急上昇。これらの影響で日経平均は今日14日高値から一時2300円程度(4・2%)下落する場面がありました。その後、米欧間の緊張が緩和すると日経平均は週末には5万4000円台にタッチするところまでリバウンド。久々のTACOトレード週間となりました。

さて、衆院が解散され選挙戦に突入した今週は世論調査などの戦況睨みの相場へと突入します。選挙＝株高アノマリーはありますが、ある程度織り込まれており膠着するかもしれません。そんな中、日米ともに決算発表が本格化します。個別物色中心の相場展開とならう。

日々勇太郎



1月第4週の動意銘柄

3DMの日足チャート

食品スーパー買い
食品消費税ゼロ公約

週明け19日、イオン(8267)やセブン&アイ・ホールディングス(3382)など食品スーパーが買われた。2

宇宙関連アルテミス始動

アストロスケールホールディングス(186A)が続騰。

3日に解散が予定されている衆院選で自民、中道改革ともに食品の消費税ゼロを公約に掲げる方針であることが材料視された。

米国主導の有人月探査計画「アルテミス計画」が来月初にも始動すると伝わったことが買い手掛かりになった。日本とイタリヤはデブリ除去など宇宙開発で技術協力、計画に初期段階から参画する方針で、Synspec(290A)

やispac(9348)、QPSホールディングス(464A)など宇宙関連銘柄が大幅高に買われた。ispacはJAXAが公募した宇宙戦略基金の技術開発テーマ「月極域における高精度着陸技術」に採択されたことも好感された。

ミツバ(7280)がストップ高まで買われ、昨年来高値を更新した。17日に日本テレビで放送されたニュース番組でレアアースを使用しない磁石がレアアースを使用した磁石と同等の出力を実現したと紹介されたことが材料視された。安価な磁石を組み合わせることでレアアースを使用したモーターと同様の出力を実現したという。

ミツバS高で新値

ミツバ(7280)がストップ高まで買われ、昨年来高値を更新した。17日に日本テレビで放送された

洋エンジンがストップ安

上昇一服で利食い急ぎの動き

20日、東洋エンジン（6330）がストップ安。レアース関連の中核銘柄として年明けから人々を集めて、前週末16日には上場来高値8760を付け、昨年末比2.8倍に急騰していた。ただ、週明け19日は高値波乱になり、この日は小安く寄りついた後5日線を下回ったことで、上昇

「アステリアJPYC普及期待」アステリア（3853）がストップ高。20日、出資先で日本円ステーブルコイン「JPYC」を取り扱うJPYC（がLINEヤフー（4689）グループのLINE NEXTと「JPYC」活用に向

けて、協業の検討を開始すると発表した。LINEアプリ上で、手軽に「JPYC」を利用できる環境を構築する方針で、「JPYC」普及への期待から買いを集めた。

えて5連騰。ナノサイズのゼオライト製品に注力していることが材料視された。ゼオライトはレアース・フリー蛍光灯向けや触媒用途として有力されているほか、レアース回収の吸着剤への利用が見込まれ、レアース関連として人気を集めた。

東電柏崎刈羽原発稼働

東京電力ホールディングス（9501）が急反発。柏崎刈羽原子力発電所6号機をこの日午後1時に再稼働させる方針と伝わった。同社の原発再稼働は福島第一原発事故のあとでは初めてで、再稼働に伴う収益改善を期待する動き。制御棒の試験で警報が鳴らない不具合が見つかり当初計画の20日から延期になっていたが、確認作業を終えて準備が整った。

キオクシアは最高値

米サンディスク株が急伸

21日、キオクシアホールディングス（285A）が急伸、最高値を更新した。ニューヨーク市場でサンディスクを筆頭にストレージ関連銘柄が急伸していることを受けてNAND専門大手の同社株にも資金が流入した。AI受けからメモリーへの需要増からメモリーが品薄状態になっており、想定以上の需要増が予想される。半導体製造成膜装置に特化する

KOKUSAI ELECTRONICS（8725）な

ECTRIC（6525）もNAND向け顧客からの引き合い増加期待から大幅高に買われた。

金融株は国債急落

三菱UFJフィナンシャル・グループ（8306）、三井住友フィナンシャルグループ（8316）などメガバンクや第一生命ホールディングス（8750）、MS&ADインシュアランスグループホールディングス（8725）な

サイバダインが急伸

22日、CYBERDYNE（7779）が急伸、年初来高値を更新した。21日に全米屈指の医療産業集積地、ピッツバーグ（ペンシルベニア州）のカーネギーメロン大学と共同研究に関するMOU（覚書）を結んだと伝えられた。

ミツバ利益確定売り

ミツバ（7280）が大幅続落。日本テ

レビで放送されたニュース番組でレアースを使用しない磁石がレアースを使用した磁石と同等の出力を実現したと紹介されたことで人気化した。20日にストップ高となった後は、さすがに利益確定売りに押された。安価な磁石を組み合わせたことでレアースを使用したモーターと同様の出力を実現している。

これでどや!!



。超值嵩
けに日経
平均の押
し上げ効
果への影
響は絶大
だったと
いえま
す。

み面は狙う作
戦でいいとみ
ています。
住友化学
(4005)
が戻り始めま
したので引き
続き注目です。

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

それを好感した買いが半導体系に集中し、ソフトバンクGをはじめ半導体系が軒並み買われました。値上がり上位はほぼ半導体で占められていました。超値株が多だけに

になりまし
ることにな
のものと対
いせんのだ
で、不具合
が修正され
た後、再稼
働となりま
す。突っ込
面は狙う作
りでいいとみ

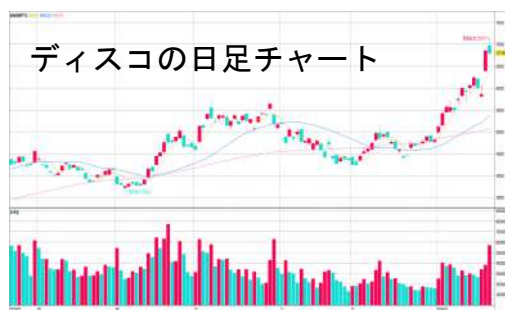
先週の東京市場は22日に大きく戻す動きになりました。日経平均は寄り付きから大きく上げ、その後も一段高となりました。引けにかけても上げの勢いは衰えず高値圏で終わっています。急騰の要因はトランプ氏が欧州各国に課すとしていた10%の関税引上げを撤回し、ギリギリランドへの攻撃もとややめるとしたからです。同盟国との緊張感が弱まったことを好感し、21日の米国株式が急反発したためでした。

異常な上げ方になってる銘柄が目立ち、目先の頭打ちに可能性高いと思われますので半導体系に偏った上げ方は続かないと判断して、ここでの上げは利益確定を急ぐ時と想ってます。むしろ、消費税減税の可能性で買われた後、下落している食品など低迷状態の銘柄を狙っていくのも一策です。

東京電力が一部不具合から稼働を停止しました。そのため、**東京電力HD**(9501)が反落に転じるアクシデント

東電HD突っ込み狙い

の導し、しか
上体系半か



ディスコがストップ高

直近3ヵ月2割超の大幅増益

22日、デイスコ
(6146) がスト

額は過去最高で保守的と捉えられた。信

洋エンジンライセンス採用

| | |
|--------|-------------|
| 週末23日、 | 東京証券取引所上場 |
| 東洋エンジニ | 10周年記念株主優 |
| アリング(6 | 待を実施すると発表 |
| 330)がス | した。基準日は3月 |
| トップ高。独 | 末で300株以上保 |
| 自技術の尿と | 有で1万5000円 |
| 造粒ライセン | 分のQ.U.Oカードを |
| スがナイジェ | 贈呈する。 |

任天堂スイッチ2米販売好調

任天堂 (797)

110件以上の自社
 尿素技術供与、プラ
 ント建設実績があり、
 特にアフリカでは日
 産4000トン規模
 のプロジェクトに同
 社のライセンス4件
 が採用されている。

4) が4日より反発
 家庭用ゲーム機「ス
 イッチ2」が昨年1
 2月、主力市場の米
 国で販売が伸び、需
 要鈍化に対する懸念
 を払拭したことが市
 場調査会社サーカナ
 のまとめで分かった
 と伝わった。発売か
 ら7カ月時点での販
 売台数がソニー「グ
 ープレ」(6758)の

アイリッジ記念優待

アイリツジ（39）がランキング上位に入ったとしている。

まだ「懐疑の中」の局面

高市勝利なら5万9000円

光世証券 エグゼクティブ・マネージャー

西川 雅博 氏

就任から丸1年が経過、トランプ大統領の派手な立ち回りがさらにパワーアップにしている印象だ。軍事力を背景にして従来の手法・枠組みから大きく逸脱した強権が矢継ぎ早に発動されている。ただ、「ドンロー主義」による地政学リスクの増大が恒常的に金融市場の波乱要因であるとの見方は短絡的だろう。トランプ大統領にとつてはあくまでも自国の経済成長が最優先課題だ。そのためには金融・株式市場の安定は必須である。中間選挙に向けて株価を意識した戦略を取らざるを得ないだろう。今後ヘッドラインを賑わす新たな事案が続く可能性があるが、強い言葉とは裏腹で変節をいとわないトランプ流である限り、短期間で収束に向かうことを見据えた冷静な対応が必要である。

国内では短期決戦の衆議院選挙がスタートする。市場が期待する高市政権の日本成長戦略を推し進めるには、首相が述べたように政治の安定が不可欠である。2月8日の投票票まで高市自民の獲得議席数に集まるだろう。過去2000年代になつてから内閣高支持率を背景に解散総選挙が行われ与党大勝となったケースは、小泉郵政解散と第二次安倍政権下の3回で計4回あった。解散から投票票日までの日経平均上昇率は平均5・9%で、さらに投票票日から30日後までの平均上昇率は4・8%であった。解散からの2カ月では10%以上の上昇である。デフレ下で株価低迷時代だったことや解散からの期間が長かったことなど今回と

相場展望

事情は異なるが、高市自民大勝となれば株価押し上げ要因となるのは間違いないだろう。

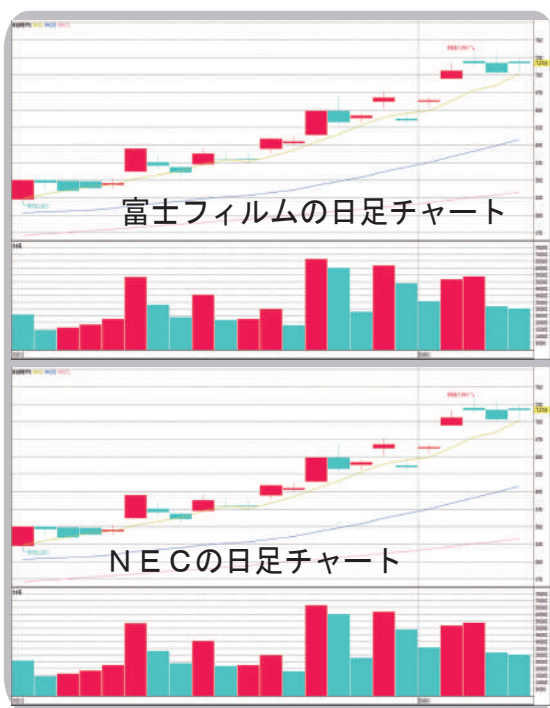
過去の平均上昇率を今回に当てはめ

れば3月末に5万9000円となる。先日、10年日本国債の利回りが2・3%台まで上昇して、グローバル金融市場で一時不安視される局面があった。一方、日経平均の益回り（予想PERの逆数）は低下気味だが依然5%である。米国では10年債4・25%、益回り4・5%でほぼ均衡している。長期金利との比較では日本株はまだまだ割安だ。インフレ経済の定着で日本でも大幅な水準訂正があってもおかしくない。PER22倍（益回り4・5%）まで買って長期金利が3%まで上昇しても割高とは言えない。1980年代には益回りが2・5%（PER40倍）長期金利6%というまさにバブル的状况を経験している。今年は日銀の金融引き締めが継続する可能性が大きい、過度に警戒する必要はなく金融が正常化に向かう途上との認識だ。

企業業績は、円安により26年3月期の上振れ期待に加え、来年度についてもインフレ効果や高市政権の経済政策により増益を予想する。現在の今期予想より今来期合わせて10%以上の増益を見込んでいる。インフレとリスクオンの環境下でPERも1割程度上昇（21→22倍）が期待されるので、年間で合計20%程度の株価上昇は十分あり得るとの計算だ。「強気相場は、悲観の中で生まれ、懐疑の中で成長し、楽観の中で成熟し、幸福感と

共に消えてい

く」とは米国著名投資家の有名な言葉である。現在はまだ「懐疑の中」の局面ではないだろうか。個別では、富士フィルム（4901）、NEC（6701）、任天堂（7974）など。



チャートから読む 騰落銘柄

グッドキューブ(9561)



昨年12月17日の390円を底にじり高基調となり、22日には一時、75日線まで急回復。ここで踏み止まり11月のもみ合いゾーンである500円台を抜けてくれば9月1日の引け値761円奪回を期待。

パナソニックHD(6752)



大勢上昇トレンドのなか5日線をフォローに鋭角的に上昇、噴き値局面近い。AIサーバー向け電子部品伸び、データセンター蓄電システムやコンデンサなどAIインフラ省エネソリューションへ期待も強い。

クラシル(299A)



昨年8月4日に2285円の最高値から半値近く下落し1月19日に1118円安値更新。底値から立ち上がりつつあるが、75日線である1317円を明確に抜けなければ再度、安値に落とされる可能性も。

ニトリHD(9843)



戻り試すも25日線に跳ね返される。2Q8%最終減益で、円安進行に伴う採算悪化により通期14%増益計画は未達成を懸念。押し目いに積み上がった信用買い残が重しで、再び下値模索も。



これに加えて立憲民主党と公明党の合併にも驚いたが、社会党が崩壊して、新進党から民主党、その後は希望の党とかも出来てはなくなり、看板が変わるのが今回で何度目かと呆れてしまう。支持するしないは別として同じ看板と組織で長年運営しているのだから自民党はその点では評価できるのだろう。企業も長期にわたって経営するは大変だ。背負う看板に責任を持つてほしい。



星野三太郎の 株街往来

～看板の重さ～

影響で東北などではドカ雪で大変な時期だ。そんな時に選挙準備をしたり選挙活動するのは極めて大変。それでも国のトップが決めたことだから準備は当然ながら国民も投票に行かなくてはならない。

新年に入ってからいきなり解散総選挙の報道が入って日経平均が一段高となり慌ただしくなってきた。筆者が記憶する限りこの時期の解散総選挙は記憶がないが、調べてみると通常国会での冒頭解散は60年ぶりの2回目、1月召集となった1992年以降では初のケースとなるようだ。1992年当時と違って温暖化の影響で東北などではドカ雪で大変な時期だ。そんな時に選挙準備をしたり選挙活動するのは極めて大変。それでも国のトップが決めたことだから準備は当然ながら国民も投票に行かなくてはならない。



New product

キッチン うちのごはん 彩りレンジの素
満足感のある副菜を短時間で



うちのごはん 彩りレンジの素

キッチン(2801)は2月2日に、満足感のある副菜を簡単に

ることができる「キッチン うちのごはん 彩りレンジの素」シリーズを新発売する。調味料と具材が入った袋に材料を入れて電子レンジで加熱するだけで、2～3人前の満足感のある副菜を短時間でつくることのできるレンジ専用の調味料となっている。難しい味付けや火加減の調整は不要で、フライパンや鍋を使わずに調理ができる。

忙しい日の追加の一品としてはもちろん、お弁当やお酒のおつまみにも最適。今回発売するのは「コクうまポテトサラダ」と「ふんわり具だくさんオムレツ」の2アイテム。

サッポロ SORACHI 1984を一新
東北産ソラチエース使用も開始



SORACHI1984

サッポロホールディングス(2101)グループのサッポロビールは「サッポロ SORACHI 1984」を2月製造分から順次リニューアルする。

1984年に開発し、今や世界中のブリュワールから人気となっている伝説のホップ「ソラチエース」を100%使用。今回のリニューアルでは、上富良野産ソラチエースの使用量をさらにアップし、東北産ソラチエースの一部使用も開始することで、4年連続で国産ソラチエースの使用量を増やしている。独自のドライホッピング製法に加え、麦汁を穏やかに煮沸することでヒノキやレモングラスのようなさわやかな香りとおいしい余韻を実現。

流通企業10社協力のもと、売り上げの一部を上富良野町や岩手県北ホップ農業協同組合に寄付を行うなど、生産者支援も行う。

潮流

未来に投資する道を選ぶ

衆院選と経済財政軸の国家戦略

marKet / bAnk



2月8日に衆院選挙が決まった。高市総理は今回の総選挙を「自分たちで未来をつくる選挙」と名付けた。今回の解散は従来型の政権延命を目的としたものではない。全く新しい経済財政政策を軸とする国の根幹に関わる大転換である。しかも、それらは前回の衆院選における自民党の政権公約には明示されていなかった。だからこそ解散は重い決断となり、首相自身の進退を懸けた政治判断となった。

高市総理は政策の大転換を国民の信任なしに進めることはできないとして、国民に正面から問いかける道を選んだ。2025年度補正予算の早期執行により、経済運営に空白を生じさせない体制を整えた上での解散であり、当面の景気下支えを確保したうえで、次の段階に進もうとしている。これは「選挙のための経済」ではなく、「政策実現のための選挙」である。高市内閣の経済政策の核心は、需要不足を前提とした積極財政を基軸にしつつ、その資金を将来の供給力を高める分野へ集中投下する点にある。

半導体、次世代エネルギー、量子・AI、宇宙、先端素材など、国家がリスクを引き受け、民間投資を呼び込む戦略分野を明確に定める点に特

徴がある。金融政策依存から脱却し、国家戦略として成長投資を行う構造転換である。しかし既存メディアの多くは、今回の解散を支持率や政局としてしか捉えていない。財政規律か放漫財政かという旧来の二項

対立に押し込め、高市経済の全体像を伝えていない。米国や欧州が国家戦略型経済へ移行する中、日本でも同様の転換が始まっているという視点はほとんど報じられていない。

衆院選で自民党が単独過半数を確保すれば、高市総理の政策は一気に実行段階へ移る。連立調整に縛られず、6月に策定される骨太方針に積極財政を前面に打ち出すことが可能となる。今回の総選挙は、単なる政権選択ではなく、日本経済の進路を数年単位で決定づける分岐点である。

最終的に判断するのは国民である。現状維持か、国家として未来に投資する道を選ぶのか。今回の衆院選での「未来をつくる選挙」とは、政治家だけでなく、国民自身が覚悟を問われる選挙にほかならない。

潮流銘柄はダイヘン（6622）、荏原製作所（6361）、住友重機械工業（6302）..

執行活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービ

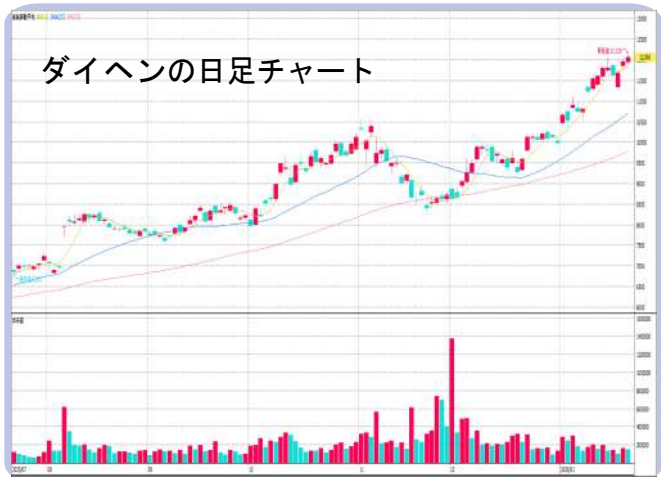
にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービ



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

国民自身が覚悟問われる

ダイヘンの日足チャート





敬院先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

円高時も底堅い動き期待

未来の日本を決める大事な選挙

先週の日経平均は前週末比約89円安となり3週ぶりに反落したが、週初の寄り付きが安かったため週足は3週連続陽線となった。先週は前週までの急激な上昇の反動により週初は安く始まり一時前週末比約1600円安まで売られたが、週末の引けでは約89円安まで戻した。

税を掛けると発表し、欧米対立の警戒感が強まり相場は軟調に推移した。しかし、その発表をその後取り消すと再び「TACOトレード」が復活し値を戻した。相変わらずトランプ氏の発言に相場は振り回されているが、米国の金融緩和路線が続く限りは上昇トレンドに変化はない。

国内に於いては2月8日に衆議院選挙の投票票が決まったが、投票当日までは選挙情勢の観測で相場は上下しそうだ。市場自体は高市首相率いる自民党と維新で過半数を取り、積極財政を推し進めるとの見方で動いているが、選挙は予想外のことが起こる。

今回、支持率から見ると高市首相に国を引っ張って行ってもらいたいけど、自民党を応援したいわけではない。しかし、高市氏が属する自民党に入れないと組織票の強い新

党の中道改革連合に総理大臣の座を奪われる可能性もある、というジレンマだ。今回の選挙は今後の日本という国の未来がかかった非常に重要な選挙である。「失われた30年」といわれる過去からの脱却ができるかどうかの選挙だ。結果は非常に大事であるが、政治に関心がなかった若者の有権者や無党派層がどれだけ選挙に参加するか投票率にも注目したい。未来の日本を担う若者層が日本について真剣に考えているのか知りたいところでもある。

相場は選挙情勢に左右されやすい展開となろう。先週は売られても戻る底堅い展開となったが、同時に円安も進行、日銀金融政策決定会合後には一時、1ドル159円台まで円安が進んだ。ここまでくるとやはり為替介入の警戒感も出るため、株式市場の高値取りは難しい。

金曜日のナイトセッション取引では円が対ドルで急騰し、1日としては約6カ月ぶりの大幅上昇を記録した。ニューヨーク連銀が主要銀行に対し参考となる為替レート提示を求めたこと、同連銀が市場介

ドル円の日足チャート



入を支援する準備を進めているのではないかと受け止められ、155円台にまで一気に円高が進み、日経平均先物は週末比800円安となっている。

週初は大きく下落してのスタートとなりそうだが、円高の時でも底堅い動きをする株式市場を期待したい。チャートでは21日に付けた窓埋め(5万2848円78銭)や節目の5万2500円、週足ボリンジャーバンドの+1σ(5万2118円)が抵抗ラインとなろう。一方、上値は5万4000円外で戻り売りは出そうである。

今週のレンジは5万2500円〜5万4000円を想定する。

(ハチロク)

記者の視点
相場見通し

円高は与党に追い風

週明け5万3000円割れ

先週の東京市場はトランプ米大統領によるグリーンランドへの軍事圧力発言があり、米国株安とともに東京市場も日経平均は21日まで5日続落、5万3000円割れまで急速に値を下げたが、その後はトランプ大統領が発言を撤回すると週末に向けては5万4000円台を一時回復するまで急速に戻している。

国内に目を向けてみると、23日に衆院が解散したが、基本路線は与党合計で過半数なら高市トランプ大統領が、それまでは今後本格化する3月期企業の第3四半期決算を睨みながらの個別物色となる。

23日引け後の植田総裁会見が終わるとドル円はニューヨーク時間に向けて1ドル155円71銭と1日の上昇を記録した。今回はニューヨーク連銀が主要銀行に

トの提示を求めるレートチャックを実施したと言われる。過去の為替介入は日本単独だったが、今回は米国の支援も得ながらの介入となれば事情が異なる。週明けは日経平均が一時的に5万3000円を割れても、日米連携による為替安定は高市与党勝利に向けて追い風になるとみたい。

今週から決算ウィークに突入する。27日にボーイング、テキサスインスツルメンツ、28日はASML、

控える。先週末はインテルの決算を嫌気して週末に半導体が軒並み反落した経緯もあるだけに国内企業を決算前に先回りするより、急がば回れで決算内容を確認してから動きたい。

国内では26日にファナック(6954)、日東電工(6988)、27日に信越化学(4063)、カプコン(9697)、28日にアドバンテスト(6857)、OLC(4661)など指数に影響を与える企業が続々と控える。選挙よりは決算リスクも考慮して慎重に動きたい。



編集後記

「AUDはお酒を飲む人の疾患です」。最近よく見かけるCMだが、気になるので調べてみた。AUD(アルコール使用障害)とは多量飲酒により脳のはたらきが変わり、自分で酒を止められなくなっていく進行性の疾患で、重症はアルコール依存症と定義される。なんだ飲み過ぎに注意ということかと思ったが、悪化すると睡眠障害や内臓疾患だけでなく、うつ病などの合併やがん、認知症のリスクも高まるらしい。

セルフコントロールが効かない事態に陥らないよう、悪化の兆候には注意したい。

当面のスケジュール

- ・26日 12月首都圏新規マンション発売
- ・27日 12月企業向けサービス価格指数
米FOMC(～28日)
- ・28日 12月18・19日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
パウエルFRB議長会見
- ・29日 1月消費動向調査
- ・30日 1月東京都区部消費者物価、12月失業率・有効求人倍率
12月商業動態統計、12月鉱工業生産
ユーロ圏10-12月期GDP
米12月生産者物価
- ・31日 中国1月製造業PMI、非製造業PMI、コンポジットPMI
- ・2日 1月22・23日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
中国1月RatingDog製造業PMI
米1月ISM製造業景況指数
- ・3日 1月マネタリーベース
- ・4日 ECB定例理事会(～5日)
米1月ADP雇用統計
米1月ISM非製造業景況指数
- ・5日 ラガルド総裁会見
- ・6日 12月家計調査
12月景気動向指数
米1月雇用統計

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。